

名古屋文理大学 / 名古屋文理大学短期大学部 / 名古屋文理栄養士専門学校

「厳しく、楽しかった授業は、 社会との向き合い方も 教えてくれた気がします。」

現在、私は『充実野菜』や『1日分の野菜』などの紙パック商品の営業を担当しています。具体的には、商品の商談や売場での展開の企画・提案というものです。営業の際、念頭に置いているのは、お客様一人ひとりに合った提案を行うということ。今の部署に異動して今年で3年目ですが、お客様との信頼関係が築けている実感があります。特に、商品を説明する際は、ゼミで学んでいた特定保健用食品や栄養機能食品に関する知識が非常に強い武器となっています。ゼミで専門的に勉強したことが、伊藤園のコンセプトの一つである“健康的な飲料をご提供する”ことと合致していたことも、志望動機となりました。

今後は女性管理職を目標に、人として魅力ある営業ウーマンになっていきたいと思っています。

普通に勉強して就活するだけでなく、 社会との接点も与えてくれた文理大

大学で受けた講義の中で、企業の社長を講師にお招きしてお話を聞く「寄付講座」は今でも印象に深く残っています。学生時代はあまり社会に触れる機会がないので大変刺激をいただきましたし、企業というものに興味を持つことができました。

実際に社会に出てみて思うのは、多くの方に支えられて今の自分があるということです。こうして楽しく仕事や生活ができるのも、両親が文理大に行かせてくれたからこそだと思います。本当に感謝しています。



職場は明るい先輩ばかり。「大渡さんは営業先でも評判が良く、しっかりしているので私たちも大変助かっています」と上司の岡部さん。

活躍する卒業生 **第5回**

株式会社伊藤園 中部量販店部 量販店4課

大渡 千尋

Chihiro Ohwatari

名古屋文理大学 健康生活学部 フードビジネス学科
平成21年度卒



事業内容 茶葉および飲料製品の製造・販売



学校法人 滝川学園
学校法人 名栄学院
理事長

滝川 嘉彦

「人間力」と「専門力」。これは本学が誇りとする強みです。これからの日本社会は、質がより重視されると考えています。当然、我々にもそれに見合った学生を社会に輩出することが課せられ、今まで以上にこの2つに注力していかなくてはなりません。そのために、教育カリキュラムはもちろんのこと、新機軸を打ち立て、さらなる強み・高みに向かって行きます。その取り組みの一つとして、附属機関の設置や連携は大変重要と考えています。今年2年目を迎えた「基礎教育センター」や本年よりスタートした「食と栄養研究所」の設置は、より高度な教育が受けられる環境の提供と技術を身に付けられること、学生同士が触れ合える場所をつく

ることを目的としています。これらの本学の姿勢を表す新機軸となり得る可能性を持つっていると確信しています。それから、直近の構想として、番期待しているのが、平成27年に完成を予定している新校舎の役割です。ここでは、学科をこえて学生や教員が思い思いに対面できる場所にしたとを考えています。学部や専攻が異なっている個々に触れ合い、そして良い触発が生まれる教育現場を目指します。違う分野の人たちがこの場で交わることで、個が光り新たな刺激や連鎖が生まれることを大変期待しています。高度な教育を充実したキャンパスで受けることで、本学のこれまでの特色でもある「触れ合い力」をさらに飛躍させた、最

高に有意義な学生生活になるものと信じています。こうした構想は我々の考える大きな「新文理」構想のほんの一部です。20年先の本学のポジションや社会のニーズなどを鑑み、地域の人々も良い意味で巻き込みながら、ともに将来の教育を担っていきたいと考えています。

本学は、「食・栄養・情報」に特化してこれまで進んできました。この強みはこの先もぶれることなく、学内外に明示していきます。そして、さらなる高みへと向かって行きます。ですから学生諸君には、自分のやりたいことをしっかりとすり合わせながら、描いた夢を実現できるように邁進して欲しいと思っています。

レベルで好成績を取っています。当校では、栄養士に求められてきた従来の知識技術が単なる専門家としてだけでなく、生涯教育あるいはキャリアアップの目的としても注目されているのだと実感することが少なくありません。この期待の下に、本学はより現場主義、実践主義でいかなければならないと感じています。社会全体が資格志向になり大学等が専門学校化しているといわれる昨今ですが、今現在も即戦力養成として実践的授業を奨励しつつ適正なカリキュラムやシラバスを留まることなく願慮しつつつけています。どうか諸先輩の方々には使命をもつて汗を流そうと考える多様な学生たちにご支援いただけたら、すよう紙面を借りてお願い申し上げます。

さらなる高みへ 「新・文理」構想

生涯を通じて 誇れるものを。

おひさしぶりです。同窓生の皆様の中には、短大部や大学の英語講義などで共に時間を過ごした方も少なくないと思います。現在、私は名古屋文理グループの母体である名古屋文理栄養士専門学校に在籍しています。平成25年に創立57年を迎える伝統ある栄養士養成校ですが、創立当時から昭和・平成と時代を経て、グループ内では最も変化してきた学校ではないかと思えます。単科の小さな学校ですが、今の在学生の半数以上が大学・短大卒業者或いは一旦社会で活躍後に栄養士免許取得を目指して入学された社会人の方々に、今日も高校新卒者と机を並べて学んでいます。年齢を問わず学習意欲は高く様々な活動にも積極的で、栄養士実力認定試験においても全国

レベルで好成績を取っています。当校では、栄養士に求められてきた従来の知識技術が単なる専門家としてだけでなく、生涯教育あるいはキャリアアップの目的としても注目されているのだと実感することが少なくありません。この期待の下に、本学はより現場主義、実践主義でいかなければならないと感じています。社会全体が資格志向になり大学等が専門学校化しているといわれる昨今ですが、今現在も即戦力養成として実践的授業を奨励しつつ適正なカリキュラムやシラバスを留まることなく願慮しつつつけています。どうか諸先輩の方々には使命をもつて汗を流そうと考える多様な学生たちにご支援いただけたら、すよう紙面を借りてお願い申し上げます。

名古屋文理栄養士専門学校
校長

滝川 桂子





何色になるか？ 新・文理カラー 創出を目指して。

名古屋文理大学
名古屋文理大学短期大学部
学長

景山 節

我々の使命を言であらわすなら、「若者の持つ持っている力を磨き、光らせること」だと私は考えています。学長に就任してまず取り掛かったのは、教職員全員で学内の現状を共有することでした。学部・学科をこえて情報を共有することで、満足のいく教育を実現し、学生がそれぞれに思い描く未来(社会)に送り出すという大学の義務が果たせるのだと思つていきます。そのような磐石なベースの上に、「食・栄養・情報」の分野でのプロジェクトを育成するカリキュラムがあり、社会で強いと言われる「文理カラー」というものの認知を深められるのだと捉えています。

本学はスローガンとして「個のふれ

あい」を掲げております。その成果として学生満足度調査では「学生と教員の距離が非常に近い」という圧倒的な評価をいただきました。また、国家試験も良い結果が出ておりますので、学長としても教員としても素直に嬉しいと感じています。そしてこれらの結果から、入学志願者増にもつながっており、良いスパイラルができていますと実感しています。今後は、さらなる教育の充実をこれに加え、周辺環境との連携をしながら、新たな取り組みをどんどん実施して、文理ならではの発信をしていきたいと思つています。学生諸君には、ぜひ楽しみながらよく学び、自己の成長を実感していただきたいと願っています。

ごあいさつ

地域連携センターからのご挨拶



地域連携センター長
栗林 芳彦

社会における大学の役割とは、「研究機関として社会に貢献すること」と「学生と社会との橋渡しをすること」だと考えております。

まさにそれらの役割を担い、打ち出されたのが地域連携センターであります。こちらでは大学と企業、自治体などさまざまな団体との関係作りを率先して取り組んでいます。大学に蓄積された知識や研究成果を外から利用しやすくとともに、学生の皆さんの社会に対する関心を広げていくのを目的としており、大学での学びが実社会に活かされると知ること「学びの意欲」につながればと思います。

TOPICS

■ 高大連携協定

大学施設での模擬授業の実施や高校への出前授業などを通じて、教員同士や生徒と学生の間の連携・交流を深めることがねらいです。

平成25年3月 一宮商業高等学校と連携
平成25年7月 愛知県立尾西高校と連携

■ 自治体などとの連携

地産地消オリジナル給食メニューや新製品アイデア・販促方法などの提案を学生が行う機会をつくるとともに、まちづくりや産業発展につなげることがねらいです。

平成24年10月 岐阜県陶磁工業協同組合連合会と
産学連携協定
平成25年 1月 稲沢市と連携

食と栄養研究所を設立しました



食と栄養研究所長
山澤 正勝

本学では、55年にわたる栄養士養成教育の実績に基づき、平成22年に滝川理事長・学長(現学園長)から、新たな名古屋文理の特徴を創造し、現場に役立つより高度な教育と技術を身につけた管理栄養士を養成するための「食と栄養の殿堂」構想が打ち出されました。その第一歩として平成25年4月1日、「食と栄養研究所」を設立しました。研究所では、稲沢キャンパス、名古屋キャンパスの研究員が協力し、地域に根ざした大学として地域住民の皆様の食・栄養・健康の分野で貢献するよう取り組んでいます。

TOPICS

■ 開設記念講演会を開催

日時 平成26年 2月10日(月) 13:30~
場所 稲沢キャンパスソフィアホール
お問い合わせ 法人事務局企画課
TEL : 0587-23-2400
(学校法人滝川学園 企画課)

特・別・対・談

大学全入時代を迎え、高度な学びのための入り口として「バランスの取れた基礎学力の育成」を目的に設立された「基礎教育センター」。開設から1年が経過し、その成果は徐々に現れ始めているようです。また、その一環の稲沢東高校との「高大連携講座」についても気になるようです。そこで今回は、教員と学生、それぞれの目線から率直な今の感想を聞いてみました。

生徒の学習意欲に変化が、 継続して連携することがポイント

落合 連携させていただいて2年目となりましたが、予想以上に高校生のモチベーションが高く嬉しく思っています。最初は3時間ぶっ通しの講義に高校生がついてこられるか心配していたんですが、提出してもらったレポート内容もしっかりとしていて安心しています。

須田 大学の講義を受講するようになって生徒たちに自発的な姿勢が現れてきていると実感しています。意欲といいますか、授業への取り組み方も違ってきているように思います。

落合 生徒をお客様扱いするオープンキャンパスとは違って、実際の講義を通して大学での学びやイメージを直接知ることができるのは良いことですね。逆に、私たちも生徒さんから得るものは多くて、どういった授業に興味を示すとか、集中力はどれくらい続くのかなどのデータを取ることができました。これは次に大学へ入学してくる1年生への講義内容に反映できます。

須田 確かに、散発的なものではなく継続的に“連携”していくことで、生徒の変化を見ることができます。生徒も次回を楽しみにしていますね。

高大での教材の共同開発も 深みが出て面白いかも

落合 この連携は、我々教員にとっても気づきを与えてくれますね。いろんな視点から見えるようになりますので、学校の垣根を越えて教員同士が指摘し合えるのは有効だと思います。

須田 そうですね。高大連携は広く行われていますが、大学→高校への一方向の取り組みになりがちです。ですから、今よりもっと生徒はもちろん教員を含めて高大の双方向性の関係を築きたいですね。そのためには私どもからも、いろいろご提供していきたいですし、また大学内に設置された連

携評議会で大学と高校がこの成果をきちんと検証して次のステップへ進むことが必要なのではないかと思っています。

落合 成果を検証しながら今後は、共同で教授法や教材と一緒に開発することも検討したいですね。高校と大学では授業でできることできないことがあると思いますから、教育に深みが出て面白くなっていくと思うんです。

あと、今後の施策として学生たちを介在させていくことを考えています。最近では学生の多様性が増していて、いろんな人と触れて成長していくという側面があります。じゃあ、そこに高校生が加わったらどのような対応をするのか見てみたいですし、高校生もちょっと年上の人と交わることで触発されると思うんですよ。

須田 それはいいですね。年代を超えて触れ合うことはいい経験になりますね。

大人として扱うことで、 自発的な成長を促す

落合 先にも述べましたが、学生が多様化していますから、我々教員も教え方というものを勉強し直さないといけないと思うんですよ。私は落語家になったつもりでいつも教壇に立ってますけど(笑)。あと、学生を大人扱いするようにしています。勉強を教えることよりも、全体的な成長を促すことを心がけています。大人扱いすると自然と大人の物腰になるものですよ。生徒さんにもそんな大学の大人の雰囲気を感じてもらえると幅ができるのではないのでしょうか。

須田 生徒が大学にお邪魔するようになって、少しでも大人の世界を垣間見るようになりました。その中で、いろいろ感じることはあると思いますが、落合先生のように大人扱いしてくれると生徒たちも嬉しいでしょうし、自ら成長を感じる瞬間なのではないかと思います。

これからは言語活動を重視。 高校での取組を支援

須田 今、言語活動の充実が求められています。自分が何を考えているのかをきちんと相手に伝える、また相手の言わんとすることを正確に聞き取る力を身につけさせることをテーマに私どもも取り組んでいます。そんなコミュニケーション力を養う上で、落合先生のサイエンス・ライティングはまさしく合致していると思います。

落合 ありがとうございます。物事を深く考えて理解して、それを表現することはすぐに身につくことではありません。高校生の頃からそんな習慣をつけておけば大学や社会に出てから非常に役立つと思いますよ。

熱心な先生方との話は 非常に面白く、刺激になる

落合 高校の先生方から高校の実験でできることの限界などの相談を受けたりするんですが、高校の学習は少しだけ大学が支援や協力することで最大化できると思うんです。教材等を共同開発することでお互いの授業が充実できたらいいですね。非常に熱心な先生方なので、話していて面白いですし刺激を受けています。

須田 この連携は、学習活動以外の部分も含んだ「すべての教育活動」を対象としていますので、職員も工夫のしがいを感じています。

落合 大学も高校も教育という目に見えないところでつながっているわけですから、面的な広がりを実現することで、それぞれのよさを地域で発揮できる方向に持っていければ理想的な高大連携になると確信しています。

須田 その通りだと思います。学びの場を核にしてひとつのコミュニティを作っていきたいですね。地域に根付いた特色ある教育、そして生涯教育へと広がっていくといいですね。

名古屋文理大学
基礎教育センター長 教授

落合 洋文氏

愛知県立稲沢東高校
校長

須田 文清氏

特別対談
番・外・編

学生さんに 聞きました!

最後は徹底的に勉強した印象が残っています

神部 基礎教育センターでの数的処理の授業は、高校で化学を選択していなかった私にとってはとても大変でした。特に最後のテストのために課題をいっぱいもらって徹底的に勉強したのは印象に残っています。

健康栄養学科2年
神部 藍香



黒川 私もそう!あのテストで死にもの狂いで勉強したから別のテストでも役立ったと思う。この私がきちんと理解できたことは奇跡です!(笑)

鈴木 日本語力の授業で言うと、アナウンサーが講師をして下さったときには、さすが!と思いましたね。1年生では少し早いかもかもしれませんが、SPIを意識した内容を入れるのもいいかなと思います。数的処理には少し盛り込まれていたと思うので。

フードビジネス学科2年
鈴木 晃司



杉浦 日本語力では、好きな食べ物を通して自分を語るという授業があったのですが、最初は好きなことを書きなさいと言われても…って感じでした。これまで、好きなこととか自分についてちゃんと考えたことがなかったからとても新鮮でしたね。

奥田 僕は、日本語力で文章について興味を持ったので、2年生になって落合先生の「文章作成演習」を受講することにしました。数的処理は苦

勞せずすんなり受講できたかなといった印象です。
栢 私はまだ前期しか受講していませんが、全般的に楽しみながら勉強できる雰囲気が好きです。先日は、コンビニおにぎりのお米の数を数えたんで

すが、平均して2000粒のお米でできてるんですよ。知ってました?(笑) あれが統計学の入口なんですかね。
鈴木 統計学は本格的に勉強するようになってから、基礎でやったことがじわーっと分かってくるのかもしれないですね。その時に復習するといいかも。

健康栄養学科1年
栢 さとり



自分の頭の中で整理して、 分からなければ積極的に質問を

奥田 役立ったことと言えば、僕は日本語力のおかげで説明が上手になったと思う。先生から直されることも少なくなってよかったですね。

栢 図説は簡単だけど、文字や言葉で表現するって難しいですね。このような“表現”という授業は高校までにはなかったので、大学の授業って感じて難しいけど好きです。

黒川 高校生の時、大学は自力で勉強するところだと教えられてきました。ですから、私の中で大学の先生は冷たい印象でしたが、文理の先生方は質問に行けばきちんと親身になって教えてくれるので安心です。高校の時よりもむしろ今の方が先生に積極的に質問をしに行ってるかもしれません(笑)。

健康栄養学科2年
黒川 愛美



神部 あと、基礎教育センターは席の座り方でも質問しやすい環境だと思います。やはり大学の先生はその道の専門家なので、とても楽しそうに授業をしてくれますね。質問したら、本当に詳しく教えてくれるので、質問しなきゃもったいない!って感じです。

杉浦 ずっと先生の話の聞くだけの授業より、板書を写しながら自分の頭の中で整理して、分からなければ質問するといった授業が理想ですね。

フードビジネス学科2年
杉浦 杏里



本気で授業に 取り組む姿勢が大切!

鈴木 僕は日本語力の授業がきっかけでプレゼンや発表することが好きになりました。なので人前で口頭発表する機会をもっと欲しいです。自分のプレゼン力アップもそうですが、ほかの人の発表を聞くことでその人のパーソナリティも見えてくるし、つながりも出来るんじゃないかと思うんです。

奥田 僕は2年生で受講する「情報フロンティア」の授業でもっと突っ込んだことを勉強したいと思っています。1年生のうちに高度な内容の授業を受けたら、2年生で新たな目標の設定ができて、みんな本気が出るのではないのでしょうか?

情報メディア学科2年
奥田 修大



神部 本気と言えば、実験はすごく頭を使うので授業が終わるとぐったりです(笑)。希望としては、先生や先輩の体験談が聞けると嬉しいです。リアルな情報を得ることで、もっと興味が湧くと思うし将来のイメージもできると思います。

奥田 授業に限らず何に対しても本気で取り組む姿勢が大切ってことですね。

Professor File

ぷろ・ふあいる

第5回

“本学教員の研究内容をお伝えます。”

清水 俊雄 (しみず・としお)

プロフィール

東京大学農学部農芸化学科生物化学研究室卒業。農学博士。旭化成㈱入社後、20年に亘り機能性食品とバイオテクノロジー食品の開発研究を基礎研究所および食品研究所において実施。食品研究所部長を務めるとともに、食品企業を中心とする業界団体の役員として、機能性食品の制度化のため提言を行う。平成12年旭化成㈱を退社、食品の健康と安全に関するコンサルティングを実施するアレスコ・ジャパン(有)を設立。平成18年より名古屋文理大学健康生活学部教授。臨床栄養協会サプリメントアドバイザー認定機構の教育企画認定委員長を13年間務め、平成19年より厚生労働省管理栄養士国家試験の問題作成委員を務めている。平成22年には、名古屋で開催された日本臨床栄養学会協会連合大会の会長を務めた。



専門分野は、食品機能学、食品安全学、食品バイオテクノロジーに加えて、科学に基づく食品の法制度を調査研究しています。大学ではこれらの科目を中心に、トクホや健康食品の科学的根拠、健康・栄養表示の制度、国際比較論などを教えています。また、消費者庁の検討会、消費者委員会において、食品の健康表示についての専門家として、科学的根拠を踏まえて、どのような健康表示の制度を作っていくかについても提言しています。更に、健康機能を持つと言われる食品成分約300についての論文や国際機関の報告書などを網羅的に調査して、有効性と安全性に関するデータベースを構築して、広く発信しています。これらの研究・調査を基に、食品にはリスクゼロはないこと、そのリスクをいかに最小限にするか、健康増進に役立つ食品をバランスよく摂取することの重要性を中心に、消費者自らが科学的根拠に基づく情報を入手して、正しい商品の選択ができることに役立つ考え方と知識を学生が取得できるように教育に努めています。

全学

「名古屋文理大学文化フォーラム」誕生

「稲沢市民会館」の命名権(ネーミングライツ)を、当学園が取得しました。平成25年4月より5年間、稲沢市民会館は「名古屋文理大学文化フォーラム」として、市や近隣の皆さんに親しまれるでしょう。市民会館は年間18万人の利用者があり、契約金は会館の運営費に使用される予定です。

当学園では、地域の文化拠点である市民会館を有効活用し、

地域貢献に寄与したいと考えます。随時イベントも開催されていますので、是非、名古屋文理大学文化フォーラムへお越しください。



大学

健康栄養学科

地産地消モーニング・カフェ

学生が考案したモーニングメニューを提供する「地産地消モーニング・カフェ」が平成25年2月9日～11日に名鉄百貨店一宮店にて行われました。修文女子高校・一宮商業高校・本学の3校が参加し、それぞれ一日ずつ臨時の喫茶店を開業しました。

本学からは、アレルギーの方にも配慮した大豆粉のスコーン、一宮産の切り干し大根を使ったひじきサラダなど4品のメニューを考案。値段はいずれも400円(飲み物付)で、健康栄養学科の3年生12人が調理や接客を手がけ、正午ごろまでに限定150食を完売しました。

他校のメニューやお客様の反応を直に見て感じる、良い機会となりました。今後もこういった体験学習を取り入れながら、学生の実践力を育みたいと思います。



大学

情報メディア学科

電子マガジン発行 iPad教育利用を報告

日本の大学で初の新生全員へのiPad無償配布も3年目となり、平成25年4月には、これまでの4倍の64GBの容量でサイズはコンパクトなiPad mini 64GB Wi-Fiモデルを新生103人に配布しました。映像資料の利用や動画作品の作成にも十分対応でき利用の幅が広がります。全学Wi-Fi環境も整備され、学生たちが

作品制作やアプリ開発に活用する様子は、内外から注目を集めています。本学でiPadをどのように教育に活用しているのか、小中高校や他大学などの教育関係者からも問い合わせをいただいています。こうした要望に応え、情報メディア学科の教員によるiPad教育利用研究会は、本学における「タブレット端末の教育利用」を内容とする電子マガジン「iPad白熱教室」を発行しました。大学のWebサイトからどなたでも無料でePub形式のデータをダウンロードでき、iPadやパソコン上で読むことができます。ぜひご一読ください。



詳しくは、
名古屋文理iPad白熱教室
で検索

全学

情報設備リニューアル

図書情報センターでは最新鋭の設備を導入していくことで、「学生が広く学べる」「社会に貢献できる」環境をつくっております。情報メディア学科をはじめ、全学の授業に活用されています。

全学無線LAN

学内すべてでネットが利用できることで、コミュニケーションが加速します。

3Dプリンター

CGソフトで作成したデジタルデータを立体物として直接造形出力できます。今、話題のプリンターです。

パソコン室のリニューアル

MacintoshとWindowsのPC約400台を最新機種に更新。図書館、食堂などでも利用できます。

大型プリンタ

大型ポスターや大量の冊子制作など、メディアラボではさまざまな用途の印刷ができます。

立体映像装置

フルHDプロジェクタを教室に配備。3Dビデオカメラで立体映像作品も作成できます。



大学

フードビジネス学科

学生と企業のコラボレーション 卒業生が商品開発で活躍

「ベジドーナツ」は、(株)昭和、(株)おとう工房いしかわにご協力いただきながら、本学科の学生アイデアで実現した商品です。現在、東京のナチュラルローソンで販売され、人気上昇中です。

伊藤忠食品(株)の「ピザラトーストソース」では、本学科卒業生(25年入社)が調理画像のコーディネート、パッケージ裏のチーズディップのレシピ考案・撮影を担当しました。本案件で、この卒業生は営業部門から商品開発部門へと活躍の場を移しました。

本学科の特色である「フード」+「ビジネス」という方針の下で学ぶ知識・経験は、存分に実社会で活かせると嬉しく感じております。



大学

情報メディア学科

佐原理助教ら独自開発アプリ搭載 スマホで地球撮影挑戦

平成25年8月29日、名古屋文理大学、名古屋大学地球水循環研究センター、蒲郡市生命の海科学館の3団体と協力機関によって「あいちサイエンスフェスティバル2013」に合わせ、スマートフォンを搭載したモジュールを気象観測用気球で飛ばし地球大気の映像撮影に挑戦しました。蒲郡市から打ち上げられた撮影モジュールは、高度2万5千メートルに到達し、約3時間半後に静岡県沖約20kmの太平洋上で回収され、漆黒の宇宙と地球の地平線との間で輝く大気層の映像を確認する事ができました。撮影モジュールには佐原助教と本学卒業生の神谷さんが独自に開発した省電力で動画・静止画を撮影出来るiOS向けアプリ(SpaceCam)が活用されています。今後は撮影された映像やプロセスをもとに各研究機関での教育・研究活動に活用する予定です。また、あいちサイエンスフェスティバルでは、研究のアウトリーチとして生命の海科学館での展示・ワークショップを行います。また、産学連携による汎用モジュールの開発普及、愛知県の気象観測の拠点づくりなどの可能性を検討中です。研究報告は名古屋大学からのプレスリリースの後、10月6日(日)には生命の海科学館にて映像の公開に合わせ講演をいたします。また、10月14日(月)には「研究者と対話する”さかえサイエンストーク(ジュンク堂書店ロフト名古屋店)にて本学佐原助教が名古屋大学の地球水循環研究センター坪木教授とともに講演予定です。



写真にみえるのは、御前崎半島と雲海に浮かぶ富士

大学

PR学科

今年も「高校生バンド コンテスト」を開催します!

10月19日
入場無料!

PR学科では3年生の授業科目「イベント企画演習」の授業の一環として、平成24年10月20日、稲沢市民会館にて「高校生バンドコンテスト」を実施いたしました。近隣の高校から8つのバンドが出演し、高校生らしい若さあふれる演奏を披露してくれました。コンテスト実施に当たっては学生が楽器店、練習スタジオ、高校などを回って出場バンドを募り、当日の司会も担当しました。



今年も10月19日(土)にバンドコンテストを実施する予定です。

詳しくは <http://www.inazawarockfes.com>

大学

女子ハンドボール部活動報告

日頃は、女子ハンドボール部に対しご理解とご協力を賜り誠にありがとうございます。

平成25年度東海学生ハンドボール春季リーグ戦を2位で通過し、8月9日～12日に熊本県山鹿市で開催された平成25年度第44回女子西日本学生ハンドボール選手権大会に東海地区の代表として出場してまいりました。結果は、同志社大学、福岡大学、天理大学と対戦し1勝2敗のグループ3位でした。

今後は、秋に開催される全日本学生ハンドボール選手権大会に出場することを目標に精進してまいりますので、応援よろしくお願いたします。



詳しくは <http://www.asahi-net.or.jp/~zb3m-knk/2013west.htm>

短大部

安城市昭林公民館主催夏季講座 「ういろう先生と作る安城発! いちじくういろう」

本学食物栄養学科科長佐藤先生と在学生3名が、ういろうの歴史、作り方を地元中学3年生20名と県立安城高校ハッピーキッチンサークルを対象に説明・実演し、全員でいちじくういろうを作りました。

参加した中学生は真剣に話を聞き、笑顔でういろう作りに取り組んでおり、とても印象的なひとときとなりました。

終了後のアンケート結果も好評で、「上手にできるか不安だったが、ハッピーキッチンの皆さんや佐藤先生達がとても優しく、楽しくできたので参加してよかった」という意見がありました。



短大部

スポーツ栄養講座

地域貢献食育講座の一環として、7月20日(土)に愛知県内屈指の強豪校である名古屋市立西陵高等学校ラグビー部の皆さんと保護者の方々、約80名を本学に招き、「スポーツ栄養講座」を開催しました。

「スポーツマンの体づくり」をテーマに、加藤恵子教授と小田良子准教授による効果的な食事、効率的な摂取方法や熱中症対策、不足しがちな栄養素といった、アスリートに必要な食と栄養についての講義に加えて、本学の専門性を高めるべく今年4月に新設の「食と栄養研究所」に導入した「InBody(体成分分析装置)」を使って、ラグビー部員の皆さんひとりひとりの体を測定し、その結果をもとに筋肉や体脂肪のバランスについて解説、改善点等を助言しました。

この講座で得られた知識や情報が、西陵高校ラグビー部の皆さんの今後の練習やトレーニングに活かされ、一層の活躍につながることを期待します。



短大部

西保健所共同特別セミナー 「あなたの生と性を大切に!」を開催しました

食物栄養学科1年生を対象に西保健所との共同特別セミナー「あなたの生と性を大切に!」を開催しました。(7月30日(火) 13:00~14:00)

講師は、女性や子供、高齢者の健康支援、性に関する啓発・教育活動をおこなっている、NPO法人ルピナスの代表・助産師としてご活躍の愛智律子先生で、「性の光と影」や「望まない妊娠」といった学生にも関心のあるテーマにスポットをあて、ご講演いただきました。

学生達にとっては夏季休暇に入る前の良い意味でのスパイスになったかと思われます。セミナーのアンケートでは、「説得力のある内容で将来に役立てたいです」、「生と性の大切さを改めて確認できました」、「とても心に響きました」といった感想がありました。

このセミナーを通じて、学生は性に関する正しい知識を得ることができたと思います。また、学生一人ひとりが自身の「生と性」に関し色々と考えさせられたのではないのでしょうか。



短大部

短大部大事務室が一新

名古屋キャンパスのC館1階にある大事務室は多い時に「学生課」や「管理課」など4つの課がありました。しかし時代は移り変わりコンピュータシステムの導入等により、事務職の業務は徐々に効率化されていきました。

そして今年の4月より短大部事務室は「入試広報・学事課」と「教学課」2つの課が合併し「学務課」の1つの課だけになりました。

業務が一元化されたため事務机や保管庫の配置も変えるとともに床をOAフロア化しました。

学生からの質問に対して「よりわかりやすく」をモットーに、これまで以上に「明るく」「丁寧な」心のもった対応を学務課一同心がけています。



専門
学校

栄養士資格を取得しよう! 今から始める生涯教育

同窓生の皆さんの中には、学生時代は他分野学科で学業を修め、公的資格の「栄養士」を未取得の方も多いのではありませんか。そんな方に朗報です。

近年、本校では若い学生にまじって30代~50代(なかには60代)の一般社会人、大学、短大既卒者も半数程を占めるようになりました。年齢なんか無関係、キャリアアップや転職、自身や近親者の健康管理のためなど、学びの動機は様々ですが、皆、栄養士資格の取得をめざして頑張っておられます。

さて、同窓生の方々には、「同窓会関係者入試」や「キャリアアップサポート入試」など特典がついた特別な入試制度が用意されています。

学生時代を思いおこし、今一度「名古屋文理栄養士専門学校」で学んでみませんか。

短大部

中庭の時計を新調しました

本学の中庭と言って真っ先に思い浮かぶものと言えば、多くの方が時計台を思い浮かべるのではないかと思います。その長年愛されました中庭の時計は老朽化が進み、時刻表示が遅れるようになりました。



中庭の時計はほとんどの学生が利用しているものであり無くてはならない、言わば「本学のシンボル」的なものです。

そこで平成23年度及び24年度の2年分の卒業記念品として中庭の時計を新調しました。今回の時計はCITIZEN製のソーラー電源の電波時計であり、時を常に正確に刻んでおります。本学にお越しの際は是非ご確認ください。

専門
学校

在学生が大健闘です

直近の平成24年12月9日に実施された(社)全国栄養士養成施設協会認定の栄養士実力認定試験の結果報告です。

今回は全国の四年制大学、短期大学、専門学校の学生9,416名が受験し、本校の学生2名が全国順位5位(同点者複数を考慮、実質全国5位)の好成績をおさめて、協会より「優等賞」の表彰を受けました。

専門
学校

専門学校卒業生の就職内定率 100%達成! 7年連続の快挙!

専門学校卒業生の就職内定率が平成18年度卒業生から7年連続100%の快挙を達成いたしました。本人の就活への取り組みや努力もさることながら、さまざまな分野でご活躍中の同窓生や関係企業・事業所の方々の温かいご支援があつてこそと、心よりお礼申し上げる次第です。今後とも母校の後輩たちにご支援賜りますようよろしくお願い申し上げます。

キャリア支援センターでは、個々の学生が確固たる将来を築けるよう、教育内容を踏まえ「就職」の面から年次ごとに様々な支援活動を行っています。それらの取り組みの結果、平成24年度就職希望者の就職決定率は全国平均93.9%を大きく上回りました。今後については、第2次安倍内閣が掲げている経済の活性化、いわゆる「アベノミクス」による効果で景気が上向く傾向が見られますが、雇用(求人状況)の回復までは時間が掛かりそうです。

まだまだ厳しい状況が続く中で学生をトータルに支援しながら、「就職に強い名古屋文理大学」として就職決定率100%を目指し、今後も社会に貢献できる人材の輩出に努めて参ります。

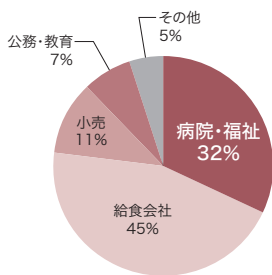
就職状況

(平成24年度)

大学

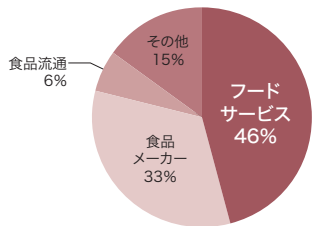
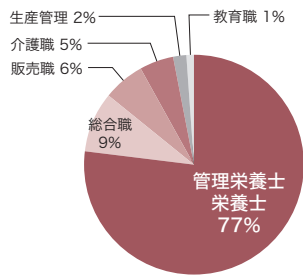
就職内定率
97.8%

業種別内定比率

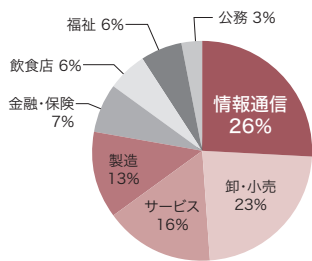
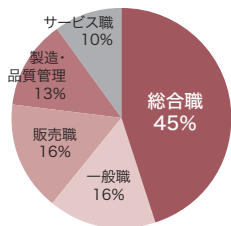


健康栄養学科

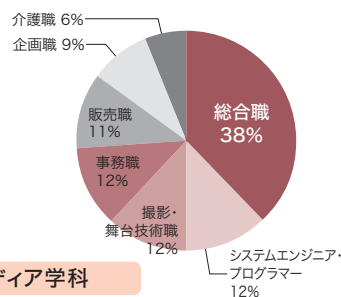
職種別内定比率



フードビジネス学科



情報メディア学科



■卒業生の主な就職先

【健康生活学部 健康栄養学科】

独立行政法人国立病院機構/海南病院/相山山病院/中野胃腸病院/恵寿総合病院/篠井総合病院/福寿園/長寿会/愛生福祉会/エッセイの株福祉会/亀山愛の里/熱海伊豆海の郷/トヨタ生活協同組合/グリーンハウス/エムービス/日清医療食品/魚国総本社/富士産業/日本ゼネラルフード/ナリコマエータープライズ/シダックス/メーキュー/トモ愛知/三重給食センター/八区炊事/デリカサイト/オールドリバー/ジップドラッグ/中部薬品/稲葉地保育園/子宝保育園/ほのぼの保育園/赤羽根学園

【健康生活学部 フードビジネス学科】

マルサンアイ/マリンフーズ/おとうふ工房いしかわ/わらべや東海/ダイニチ食品/山眞産業/エスフーズ/シャトレーゼ/アイディー・クリエイト/ポッカクリエイト/タニザワフーズ/ブロンコビリー/アジアル/物語コーポレーション/スガキシステムズ/山本屋本店/重光/ABC Cooking Studio

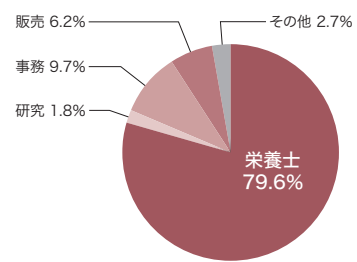
【情報文化学部 情報メディア学科】

シンポー情報システム/モアソングジャパン/エスケイワード/ダイレクトコンサル/アイ・シー・シー/トーション/コサカ精工/中村木材/エスフーズ/ライト/パロー/ケーヨー/ジーフット/ミッド・インターナショナル/テルミック/ツーンネット/ポッカクリエイト/松屋フーズ/尾西信用金庫/稲沢市商工会議所

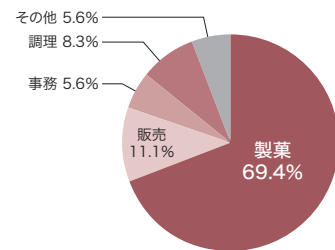
短大部
就職内定率
97.4%

専門学校
就職内定率
100%

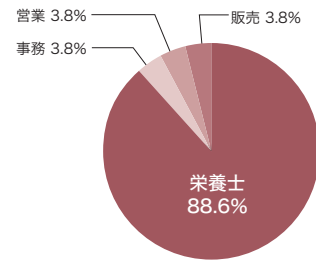
職種別内定比率



短大部 食物栄養学科(栄養士専攻)



短大部 食物栄養学科(製菓専攻)



専門学校 栄養士科

■卒業生の主な就職先

栄養士系学科【短大部/食物栄養学科栄養士専攻】【専門学校/栄養士科】

■専門職(給食会社/医療福祉/研究開発/保育教育)

日清医療食品/魚国総本社/富士産業/日本ゼネラルフード/フジ産業/メーキュー/日本アグネス/グリーンハウス/レオック/メフォス/ミツオ/ニチダン/八区炊事/小山田記念温泉病院/好生館病院/富田浜病院/尾西病院/海南病院/江南厚生病院/知多厚生病院/豊田厚生病院/済衆館病院/名糖産業/名古屋牛乳/ベル三好幼稚園/オールフェアリー/塩満保育園/めぐみ保育園/いりなか保育園/いぶき保育園 他

■一般職

国分/清洲桜醸造/丸八証券/サンエーインターナショナル/ホテル東海園/若菜 他

【短大部/食物栄養学科製菓専攻】

金谷ホテルベーカリー/スイートスタイル/ボンパドゥル/カフェタナカ/さんらいず/ミュゼ・ドゥ・アッシュ/芳光/正和製菓 他

同窓会から

名栄会

名栄祭における同窓会企画

日時 平成25年10月19日(土)

場所 名古屋文理大学短期大学部 指定教室

詳細は下記名栄会Webサイトをご覧ください。



【昨年の名栄祭にて】

同窓会会長賞(卒業時に表彰)

同窓会会長賞は成績優秀で自治会やクラブ活動などの学園行事において活躍され、学園の活性化に貢献された人物に授与されます。

【平成24年度受賞者】

食物栄養学科栄養士専攻 山越 由紀子さん
栄養士専門学校 末松 良介さん



平成25年度名栄会定例総会開催の報告

平成25年6月24日(月)午後7時より、名古屋文理大学短期大学部E館大会議室において開催されました。議事内容等詳細は名栄会Webサイトをご覧ください。

名栄会Webサイト

<http://www.nagoya-bunri.ac.jp/COL/meiei/>

[同窓会事務局へのお問い合わせ]

同窓会事務局 S館2F

開室時間：月・水曜日 午前10時～午後3時
(短期大学部の休業中を除く)

TEL：052-521-2251(内線521) FAX：052-521-2259

E-mail：meiei@nagoya-bunri.ac.jp

稲友会



平成24年度

卒業生に対する進学・学会参加への助成

助成者からのメッセージ

名古屋文理大学が4年制大学へ改組転換してから14年が経過し、稲友会としても、今後の卒業生の活躍が期待されます。そこで、開発・研究職として働く卒業生の萌芽的な活動への奨励として、大学院進学・学会参加に対して、次のような助成を行っています。

平成24年度 助成件数：2件 助成金額：各3万円(1件あたり)

助成対象：名古屋文理大学卒業生のうち卒業後7年以内で、大学院在学中の者もしくは学術学会の会員

なお、助成金授与式を平成24年10月28日(日)に総会内で行いましたので、ご報告とともに助成者からのメッセージをお伝えします。



神谷 典孝さん

平成23年度 情報文化学部 情報メディア学科 卒業
進学先：情報科学芸術大学院大学

情報メディア学科在籍時からのiOSアプリケーション開発の経験を元に、モバイルデバイスにおけるコンテンツ制作環境について研究を行っています。

昨年度はAR(Augmented Reality)コンテンツをモバイルデバイス上で作成するためのツールの研究および制作を行いました。並行して、デジタル・サイネージ、電子書籍、モバイルデバイスとフィジカル・コンピューティングの連携など、新しい領域での制作活動にも取り組んでいます。

研究、制作領域の拡大に伴い、過去の資料や制作物のデータが膨大なものとなってきました。また、モバイルデバイス向けのコンテンツもここ数年でリッチになり、4年間使用していた制作用コンピュータも手狭になってきました。そこで、助成金を活用してコンピュータの更新を行い、スムーズな作業ができるよう環境を整えました。ご支援を頂きました名古屋文理大学同窓会稲友会の皆様に感謝申し上げます。



入江 泰之さん

平成24年度 健康生活学部 フードビジネス学科 卒業
進学先：立教大学大学院 ビジネスデザイン研究科

私はパワーショベルやブルドーザを海外へ輸出する貿易会社の経営と並行して、名古屋文理大学(フードビジネス学科)で食に関連する諸知識や外食産業について体系的に学び、卒業後、経営全般におけるゼネラリストの養成機関でもある、立教大学大学院ビジネスデザイン研究科(MBA前期博士課程)に進学しました。

大学院では、多様なバックグラウンドを有する仲間達(金融機関、経営コンサルタント、税理士、エンジニア、企業経営者、弁護士、航空会社等)とともに、知識・経験を共有しながら戦略、会計、マーケティング、ファイナンス等々、マネジメントに必要とされる基礎知識を学んでいます。

学外においても、日本フードサービス学会や日本ホスピタリティ・マネジメント学会など、外食産業に関連する学会へ研究聴講生として参加し、あらたな気づきを頂いております。

稲友会からの助成金の支出明細 ●学術参考書の購入 ●学会への参加費

平成25年度以降も継続事業として「卒業生に対する進学・学会参加への助成」を行っています。助成対象者の方は同窓会Webサイトより奮ってご応募ください。

※今年度の上記助成についての応募受付は終了しました。次年度につきましては詳細が決まり次第、以下の同窓会Webサイト及びB-netブログへ掲載していきますので随時ご確認ください。(4月上旬頃掲載予定)

名古屋文理大学同窓会・稲友会Webサイト

<http://www.nagoya-bunri.ac.jp/classmate/index.html>

インフォメーション

【科学研究費助成事業・奨学寄附金・委託研究費の実績一覧】

平成24・25年度は以下の科学研究費補助金・奨学寄附金・委託研究費を受け入れました。 ※平成25年度は7月31日現在の状況

平成24年度				(単位:円)
科学研究費助成事業	氏名	金額	研究課題	
基盤研究(B)	山田 弘明	2,470,000	デカルト書簡集の全訳プロジェクト	
若手研究(B)	成田 裕一	1,820,000	Hox変異マウスを糸口にしたトノトビー形成メカニズムの解明	
基盤研究(B) 研究分担者	長谷川 聡	130,000	立体映像による眼疲労と3D酔いの原因の特定と対策の確立	
基盤研究(C) 研究分担者	山住 富也	130,000	創造的思考力訓練を目的としたeラーニングの授業設計とその教育教材の開発研究	
基盤研究(C) 研究分担者	江上 いすず	260,000	筋萎縮性側索硬化症の栄養療法指針作成を目的とした基礎的疫学研究	
基盤研究(C) 研究分担者	中村 麻理	78,000	産業グローバル化先進都市地域の階層構造変動と集合行為レジーム	
奨学寄附金				
氏名	金額	研究課題		
カゴメ株式会社	芳本 信子	200,000	虚血マウスに対するリコピンの投与効果の検証	
委託研究費				
氏名	金額	研究課題		
名古屋市上下水道局	芳本 信子	220,000	体と環境にやさしい料理レシピ等の研究及び作成	
愛知県下水道科学館	宮澤 洋子	358,050	エコレシピ作成	
小牧市	栗林 芳彦	414,656	情報発信活動及びPR活動支援	
平成25年度				
科学研究費助成事業	氏名	金額	研究課題	
若手研究(B)	成田 裕一	2,470,000	Hox変異マウスを糸口にしたトノトビー形成メカニズムの解明	
基盤研究(B) 研究分担者	長谷川 聡	130,000	立体映像による眼疲労と3D酔いの原因の特定と対策の確立	
基盤研究(C) 研究分担者	山住 富也	195,000	創造的思考力訓練を目的としたeラーニングの授業設計とその教育教材の開発研究	
基盤研究(C) 研究分担者	江上 いすず	65,000	筋萎縮性側索硬化症の栄養療法指針作成を目的とした基礎的疫学研究	
委託研究費				
氏名	金額	研究課題		
名古屋市上下水道局	芳本 信子	220,000	体と環境にやさしい料理レシピ等の研究及び作成	

【平成24年度 財務状況・事業報告について】

学校法人 滝川学園ホームページの財務状況をご覧ください。 <http://www.nagoya-bunri.ac.jp/gakuen/finance.html>

【寄附金のお願い】

本学は「世界から信頼される若人を育成する」との立学の精神の下、高等教育機関として社会のニーズに応えるべく教育体制を充実させるとともに教育研究施設等の整備に努めております。学生がこれまでと同様の教育研究を享受するために更なる努力が必要です。任意ではございますが卒業生の方をはじめ幅広く社会各層の方々からご支援をいただきますようお願い申し上げます。

なお、従来よりご支援いただいております一般寄附金に加え、特別寄附金として名古屋文理大学稲沢キャンパス新校舎建設事業に対する募金活動を開始しました。重ねてご支援賜りますようお願い申し上げます。

【寄附者ご芳名】

平成24年8月1日から平成25年7月31日までの寄附者ご芳名を掲載させていただくとともに、ご芳志に対し厚く御礼申し上げます。

多くの方よりご支援賜り、ありがとうございました。

●企業

紀伊國屋書店／総合電気通信／ナカシマ／フレスコ・ジャパン／メガトンハウス

●個人寄附者

Jan Buckley／安藤 幸代／池田 純三／石井 康之／市川 和昭／市川 和洋／伊藤 智史／伊藤 猛司／伊藤 洋輔／岩橋 二三夫／岩橋 美智子／大崎 緑男／大野 知子／岡田 順子／岡見 雪子／小川 和夫／落合 洋文／金井 勝一／川口 恭弘／河田 貢／岸田 友子／國友 愛奈／國友 敏子／國友 宏渉／栗原 寿男／小崎 美沙子／小島 一夫／後藤 千穂／小早川 和也／近藤 みゆき／坂井 絵美／佐々木 辰興／佐藤 生一／佐原理／柴田 貴子／清水 俊雄／杉浦 孝／鈴木 敦之／須藤 久美子／須藤 裕之／須藤 正人／外山 友之／高久 達也／滝川 静乃／竹内 宏子／田島 睦美／田中 明子／辻 とみ子／坪井 一夫／手塚 修文／寺島 紘／富田 靖彦／永森 克志／永森 靖夫／野々部 知加／長谷川 順子／端山 加代子／濱口 潤子／平林 義章／深見 亮司／本多 一彦／増田 昭二／松川 敦宣／宮澤 洋子／宮地 忍／森 考弘／森 貴浩／森 知津子／森 博／森山 昭彦／山崎 璋子／山澤 正勝／山住 隆二／山住 富也／山田 万雄／横田 秀雄／吉田 薫／吉田 年子／吉田 友敬／吉田 洋／米澤 敏

(敬称略、順不同、公表を了承された方々のみ掲載)

寄附金については、同封の「一般寄附金募集要項」及び「特別寄附金募集要項」をご覧ください。また、ご不明な点については下記までお尋ねください。

・問い合わせ先

〒492-8520 愛知県稲沢市稲沢町前田365(名古屋文理大学) 学校法人 滝川学園 事務局 経理課 寄附金係 TEL 0587-23-2400(代表)

[卒業生の就職・転職支援について]

キャリア支援センターでは、今までも来課する卒業生に対して求人情報の提供および相談対応を行ってまいりましたが、昨今の就職環境悪化に対応し、卒業生向け支援においてもこれを強化することとなりました。具体的には、職業安定法第33条の2に基づき、以下の職業紹介業務を行っています。

- 1 **キャリアカウンセリング(一次面談)**
・初回来訪時に、「既卒者向け進路登録票」の記入と30分を目安とした面談を行います。
・ご希望の確認と、今後のサポートについての紹介・相談を行います。
- 2 **履歴書・職務経歴書の添削、アドバイス**
・キャリア支援センターに来課いただき、30分を目安に添削、アドバイスをいたします。
- 3 **面接対策講座、マナー研修等の受講**
・必要に応じて、ヤングジョブ愛知が実施する面接対策講座、マナー研修等の受講を紹介いたします。
- 4 **大学に届いた求人情報の提供**
・「名古屋文理大学就職支援システム(J-NET:求人票を閲覧できるWEBシステム)」のID(既卒向け)を発行します。
- 5 **職業紹介**
・ヤングジョブ愛知からの求人情報の紹介とともに本学独自の非公開求人をご案内します。

■就職支援の対象

年齢が30才以下の名古屋文理大学・名古屋文理大学短期大学部・名古屋文理栄養士専門学校卒業生の方を支援の対象とします。

■卒業生向け支援による主な就職・転職先

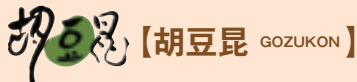
国立病院機構 名古屋医療センター/国立病院機構 天竜病院/国立病院機構 医王病院/医療法人澄心会 名古屋ハートセンター・岐阜ハートセンター/社会福祉法人中日会/医療法人恵愛会 小林病院/スカイ保育園/フジ産業/メグリアック/三菱電機ライフサービス/明治/あま市教育委員会/日清医療食品/日本ゼネラルフード/医療法人桂山会 鶴岡リハビリテーション病院 他

新校舎建設事業募金についてお願い

「食と情報」の教育研究の拠点となるべき新校舎の建設を平成26年よりスタートいたします。
つきましては、皆さまのご理解とご協力をお願い申し上げます。

詳しくは、広報誌ふんりと同封されている「特別寄附金募集要項」をご覧ください。

MY DREAM SHOP



名古屋市中区丸の内二丁目1番19号
[TEL] 052-232-1088
[ホームページ] <http://www.gozukon.com/>

定休日/日祝・第三月曜
ランチタイム/11:30~14:00(ラストオーダー13:00)
ディナータイム/17:30~22:00(ラストオーダー21:00)
※お立ち寄りの際はお電話をいただくとスムーズにご案内できます。



名古屋文化栄養専門学院(現・名古屋文理栄養士専門学校)本科第4回生(昭和37.3卒)で、前名栄会会長としてもご尽力され、昨年他界された加藤敏彦氏(享年74歳)は、昭和45年に新名クッキングスクールを開設、テレビや本で創作料理とその腕前を披露してきました。講演会では、日本人の体に合う食材「胡豆昆」を使った料理で元気になって欲しいと伝えてきました。

平成15年には、念願のお店「胡豆昆」を創業。故加藤氏の味付けの「感覚」や、意外な食材を組み合わせる「発想の柔軟さ」から生まれる創意に富んだ料理が魅力のお店です。

現在は、お弟子さんである中西さんが料理長・店長として「胡豆昆」を守っています。「体に良いものを食べた、美味しかったというお客様の言葉が何よりの支えです。1日でも長くお店を続けていくことが私の使命です」と中西さんは力強くおっしゃいました。

加藤氏亡き後も、無駄なものを使わない自然な味付けを大切にしており、すべてを食べ終えた後のスーッと体に染み渡るあと味からは癒しと元気がもらえます。是非一度、お立ち寄りください。



故 加藤敏彦氏

店長の中西さん(右から2人目)

「胡豆昆ドーナツ」おみやげにどうぞ

編集後記

「ふんり」も5回目となりました。今号では取材記事を多く企画し、たくさんの方と出会うことができました。この「ふんり」は私たちにとっても、人と人をつなぐ役割を担っています。読者の皆さまにも、この「ふんり」が懐かしい出会い・新しい出会いのキッカケになればと思います。発刊にあたり、原稿執筆・取材をお引き受けいただきました皆さまへ心より感謝申し上げます。 ぶんり編集室

募集します!

みなさんからのメッセージをお寄せください!

「ふんり」は卒業生の皆様を誌面でつなぐコミュニケーション誌です。

- ◆「ふんり」への感想をお寄せください。
 - ◆「ふんり」でこんなものを読みたい、知りたいというリクエストも受付中。
 - ◆その他、卒業生同士の交流の呼びかけや近況報告など。
- E-mailやお便りでお送りください。